（様式第４号）

介護保険運営協議会　会議概要

１　審議会名　　上田市介護保険運営協議会
２　日　　時　　令和８年 10 月８日　午後１時 30 分から午後３時 00 分まで
３　会　　場
４　出 席 者　　鳥羽委員（会長）、羅委員（副会長）柳沢委員、木島委員、倉澤委員、佐々木委員、土屋委員、中村委員、西山委員、尾崎委員、古田委員、堀委員、山浦委員、横沢委員

５　市側出席者　長田福祉部長、西澤高齢者介護課長、高寺地域包括ケア推進係長、片山高齢者支援担当係長、山寺高齢者支援担当係長、甲田介護保険担当係長、小岩井介護保険担当係長、富沢高齢者支援担当係長、小山高齢者支援担当係長、介護保険担当　小山主任、佐藤主事

６　公開・非公開等の別　　公開　・　一部公開　・　非公開
７　傍聴者　　０人　　記者　　０人
８　会議概要作成年月日　　令和８年 10 月９日

協　議　事　項　等

１　開　　会（高齢者介護課長）
２　あいさつ
３　協議事項（会長の進行）
（１）第１０期上田市高齢者福祉総合計画の策定について
第１０期上田市高齢者福祉総合計画（案）

（事務局）
第１０期上田市高齢者福祉総合計画（案）第１節から第４節について説明
（会長）
質問およびご意見ありましたら挙手をお願いします。
（委員）
２ページの健康寿命が下がっていることはわかるが理由が気になる。他のところでもあるように市ではいろんな健康寿命を延ばすためのサポート・活動・運動をしていただいていると認識しているが、結果がついていない。その主な原因をお聞きしたい。
（事務局）
健康寿命の延伸、高齢者が我々65 歳以上の方々対象にやっている事業ですが、その方々のみを対象にやっていても、健康寿命というのはなかなか伸びません。
中高年期 30 から 40 代ぐらいから健康に留意を始めないと健康寿命というのはなかなか伸びていかないということで、高齢者介護課と健康推進課、子供から大人まで上田市の健康について担当していく課ですが、そちらも健康寿命の延伸に合わせて一緒に取り組んでいるという状況です。
健康推進課も我々も確実な数字の根拠というのは持ち合わせてはいないが、おそらくこうであろうという回答を説明します。
まず一番大きいのは、生活習慣病の罹患者が多いです。高血圧、メタボリックシンドロームという脂質異常の方々が多いなど、県内の平均値よりも悪い数字が上田市は統計として出ている。
そのような生活習慣病の中では糖尿病が大きい割合を示しており、糖尿病患者になると 65 歳以上過ぎて年齢を重ねてくると、認知症の発症率も非常に高いということがわかっております。
若い頃から生活習慣病に対応するような栄養化の整った食事、筋力をつけるような運動、そして良質な睡眠で、我々が特に気をつけているのは外へ出て人と出会う、社会との繋がりの場を歳をとっても続けられる環境を整えていくこと。この計画もそのような考えを含め進んでおります。

（委員）
フレイルの事業で、まだ空欄ですが、他の課・仕組みとの折り合いをするとのことでしたけれど、3 ページ目、第 2 節の 3 につきまして、何か今後具体的にありますか。
（事務局）
保健事業と介護予防の具体的実施につきましても、実績でいたしますと令和 6 年度 82 ヶ所、令和 7 年 100 ヶ所、令和 8 年の見込み 112 ヶ所令和 9 年から 11 年 112 ヶ所ということで、先ほど申しました地域リハビリテーション、あるいははつらつ健康教室の場に保健師、管理栄養士、歯科衛生士等会場で問診を行い、その結果を国民健康保険団体連合会からのデータ等と照らし合わせ医療と確実に繋がっているかと精査し、保健指導等を行っていく予定です。
（会長）
他いかがでしょうか。
（事務局）
第１０期上田市高齢者福祉総合計画（案）第 5 節から第 8 節について説明
（委員）11 ページの現状と課題のところに中ほどに介護の担い手不足が見込まれるとあるが、生産年齢が減ることによる減少があるとは思うが、最近は医療や介護や福祉分野を目指す人材がどんどん減って養成校も閉鎖するようなことも増えています。その両方の要因で、かなり減ってきているとは思うが、そこに対して上田市として、考えはあるか。言い換えると、医療や介護や福祉の魅力を発信するような事業とか取り組みのご予定など、あれば教えてください。
（事務局）
介護人材不足は、我々もひしひしと危機感募らせており、介護保険制度が始まって 26 年、当時、爆発的に増えたという言い方がいいのかわかりませんが、ケアマネさんがその当時増えました。その方々がこれから 5 年 10 年の間に、60 もしくは 70 歳近くになってきて現場の仕事から離れる方々が非常に多く、出てくるというのが実態です。
現場で働く方々が高齢化してきて、しかも少子化・生産年齢人口の減少とプラス介護職を目指していただける方が少ないという状況で、本当に今後日本中も高齢者向けの福祉を支えていかれるのか非常に危惧している。2 年程前から上田市が特に力を入れていることがあり、第 1 に介護職医療福祉職の報酬が他の職種に比べて平均額は全然低い。厚生労働省が仕分けしている 15 項、業種別の中で、医療福祉という部門は 11 位です。真ん中より全然低いのが、報酬手当の現実です。せめて平均真ん中ぐらいになるまでは介護報酬を上げていただきたいということで、制度上、法律上決まっているので、上田市単独でどうにかなるということではないが、県と国へ強く要望を上げているところです。
上田市単独だけではなく、日本全国の市町村は同じ考えを持っており、市長会という日本全国組織においても、国の方に強く働きかけをいただいています。
もう一つは、肉体的な負担が非常に多い職場ですので、機械の力、IT の力等をどんどん入れていかなくてはいけない。良い機械設備システムがあればそれを導入できるように補助金、広報にも力を入れて普及させていきたいというのが、今の現時点での上田市の大きな取り組みになります。
まだまだ不足だと思うが、人材が不足にならない状況を目指した取り組みにも力を入れたいと思いますので、アイディア、ご意見いただけたらと思います。
（委員）
3 点質問。
1 点目は、8 ページの①成年後見センターの運営のところですが、手元に民法や社会福祉法の改正、正式名称は地域権利擁護相談支援センターという名称があると聞いているが、もう少し権利擁護の観点から広く捉える意味として、センターの名称の変更は、検討の論点として考えているのか。
2 点目は、10 ページ一番下の方②地域ケア推進会議の開催が、実績見込み目標どんどん数字が上がってきている。個別会議の方が状況に応じて開くという形でよく行われていると思うが、ほぼ毎年のように数字が右肩上がりになっています。これは回数を増やしている背景というのは、どういった意味があるのか、物理的に実現可能かどうかというのも含め教えていただきたい。
最後に 3 点目は 12 ページ③住民主体の生活支援サービスへの支援で、これまでの実績を踏まえどういった反響があるのか。イメージとしては、地域に広がりそうな感じのサービスだが、予算の関係なのか手を上げている事業者がいないのかどうか。

（事務局）
8ページ成年後見支援センターについて、現時点で名称変更は考えていない。
それと1点飛ばしまして、12ページの③住民主体の生活支援サービスの支援、少しずつ増えているような表になっていますが、行政とすればできるだけたくさん作っておきたい。予算で抑えているということ一切ありません。私達は要望があるだけ作っていきたいと考えております。住民主体となっているので、リーダーになる方々が一歩踏み出さない、もしくはリーダー不在な地域という表現が正しいかどうかわかりませんが、取り組みが芽生えてこないのが地域の現状です
地域包括支援センター、それから高齢者介護課の主現場に入る保健師等職員含め、リーダーを一生懸命探しています。リーダーがいらっしゃればお声をかけて財政的には上田市の方で補助しますので、こういった団体を作って、地域、歩いて行ける範囲の中でこういったサービス提供の方もできるような活動しまについて声がけはしているが、少しずつしか増えてないのが実態。
（事務局）
第１０期上田市高齢者福祉総合計画（案）第9節から第12節について説明（会長）
（委員）
ケア会議、地域ケア会議とか協議会は、各関係者が時間を調整して行わなければいけないので、開催が厳しいところもあるとは思うのですけども、回数を重ねることで、その地域の課題が必ず浮き彫りにされていくので大事な吸い上げの場になっていると思います。回数目標件数、そういった数値にとらわれないで丁寧に定期的に開催していけばいいと思います。
（事務局）
包括10ヶ所ありますが大変活動が活発で、活発なのは包括だけではなくて、地域でいらっしゃる方々の熱意あるようなところはやはり回数も多くやっていただいている。そうでない地域もあるのでそういったところをできるだけ上に引っ張り上げたいというのが我々の考えているところでございまして、そのためのPRを開催していく、おっしゃられる通りで回数にご上限を作るわけではなく最低このくらいやっていきたいという数字だと思っているのでたくさんの課題に対する会議検討をして実行に移せるような流れを作っていきたい。
（委員）
包括支援センターですが、支援に向けた取り組みを考えていただき大変と感じるが、行政の方から発信をして、地域の自治体の方自治会長さんや民生委員さんたちも、市でこういう高齢者に向けての取り組みをしていることが伝わればケアマネの仕事も進む。
市民に向けてもっと発信をしていくことを、これから取り組んでいただきたい。
（事務局）
行政がやっている事業は知らない方が大変多いと十分認識しており、様々な場面でこんな事業をやっていると説明しております。ホームページもSNSも広報うえだも地域から上げる広報紙も、各センターの窓口や包括にもパンフレットを置いたり、我々が思いつくことはやっているが、なかなか浸透しない。どうやれば一番良いのか手探りで、これが1年や2年ではなくずっと続けている。できるだけ多くの市民の方に高齢者のみならず、それを支える若い世代にも伝わるように工夫していきたいと思いますので、何か広報より良いやり方等ありましたらぜひご意見いただければありがたいと思っております。
（委員）
はつらつ健康教室の目標が回数でなく参加人員にした方が現実的ではないかと思います。
（事務局）
人数がほぼ上限化しているので具体的な実数です。はつらつ健康教室ですが、直近の参加人数の実績ですが、令和4年度が2315人、令和5年度が3617人、令和6年度が5582人、令和7年度が6106人と右肩上がりで伸びており、安全に開催できる高齢者の方を収容できる会場の確保が困難となっており市内にない現状もあり、会場の確保ができれば参加人数も増やせる。
（委員）
人材不足ですが、ITを使ってというところで、タブレット等の補助があっても、その先継続して使う費用は自分たちの持ち出しのようになり無理が生じる。継続費用だなと思う。
もう一点、10年くらい前の他県研修で計画をAIを使っているところがあった。計画もある程度そういうものを使っていかれれば仕事量が軽減されるので、その補助はどのように考えるか。

（事務局）
上田市での補助は厳しい。県の方で補助制度を持っているが、更新費用や機器の更新についての補助現在ないので、ご要望のお話伺いながら、県へも補助拡充を促す活動できると思う。先進地たくさんある情報をこの地域にも広くお知らせして導入、補助金をつかえるような情報提供をしていきたい。
（会長）
ありがとうございます。これで協議事項は終了しました。

＊　会議概要は原則として公開します。会議終了後、１週間以内に行政管理課へ提出してください。
＊　非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。